

出題の意図

大学院等：社会文化科学教育部 課程等：博士前期課程

専攻：文化学専攻 コース：英語教育専門職コース

試験の種別：一般入試

科目等：専門科目（英語教育）

問1は、ディベートを用いた授業を行う際に必要な知識を評価することを目的としている。ディベートの形式を準備時間の長さで分類すると、伝統的に行われてきた数カ月程度の準備時間で詳細な証拠資料を集めて議論を展開する準備型ディベート（policy debate）と15分～30分程度の短い時間で、自分の持っている知識をもとに議論を展開する即興型ディベート（parliamentary debate）に分類される。本設問は、これらを授業に導入する際の利点・欠点について受験者の理解を問うものである。

問2は、外国語教育における近年の動向に関する受験者の知識を評価することを目的としている。文法訳読法やオーディオ・リンガル・メソッドなどの伝統的な教授法は、一般的に教師中心型の授業と位置づけられる一方で、コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング（CLT）やタスク中心型言語教育（TBLT）といった比較的新しい教授法は、学習者中心型の授業と位置づけられることが多い。本設問は、これらの分野についての受験者の理解を問うものである。